

令和6年度 海外研修旅行（台湾）

1. 研修目的

- 海外の大学生・高校生との直接的な交流を通じ、国際社会で自らの意見を発信できる「国際性」を養う。
- 世界トップレベルの大学や最先端の科学技術施設を視察し、自然科学に関する知見を広げるとともに、探究心を高める。

2. 実施概要

- **期間：** 令和6年12月15日（日）～12月19日（木） 4泊5日
- **研修地：** 台湾（台北市、新竹市、彰化市）
- **参加者：** 国際理学科 2年生
- **主な訪問先：** 国立台湾大学（最高学府での学術交流）
 - 国立清華大学（科学技術研究の視察）
 - TSMC MUSEUM OF INNOVATION（最先端半導体技術の学習）
 - 国立彰化女子高級中学（現地高校生との学校間交流）
 - 国立故宮博物院（歴史・文化理解）

3. 研修内容と成果

① 異文化交流と国際性の育成

国立彰化女子高級中学との交流や、国立台湾大学での学生交流を実施しました。事前学習で取り組んだSDGsの課題解決策や自身の研究内容について、**全行程を通して英語でコミュニケーション**を図りました。当初は専門的な内容を英語で伝えることに苦労する場面もありましたが、5日間の実践的な環境の中で、最終的には自信を持ってプレゼンテーションを行い、質疑応答にも主体的に取り組む姿が見られました。

② 最先端科学技術への知見習得

世界的な半導体メーカーであるTSMCのイノベーション館や、国立清華大学の視察を通じ、最新の科学技術が社会に与える影響を肌で感じることができました。国際理学科の生徒として、日本国内に留まらない広い視野で自然科学を捉える貴重な機会となりました。

③ 研修の総括

「英語で考え、発信する」という負荷の高いタスクに対し、生徒たちは現地の学生と触れ合う中で様々な工夫を凝らし、対話を継続させました。この5日間で得た「自信」と「知的好奇心」は、今後の探究活動や進路選択における大きな糧になると確信しています。

4. 研修の様子

